

### 具体的かつ実行可能な適応策について（一次案）

- ・長期モニタリング計画に基づく各種モニタリングの継続的な実施を適応策の基本として位置づけ。
- ・その他、リスクに対する人為的な手立ての可否を念頭に、気候変動以外のストレス要因の低減や順応性の強化を主軸として、従来の施策をさらに促進。

対象生物	気候変動に対する適応策
①アザラシ（ゴマフアザラシ） ②トド	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存のストレス源（混獲などの漁業の圧力、ごみ・油汚染などの人間活動からの圧力）の低減</li> <li>● 適正利用の推進</li> <li>● 関係者との協力関係の構築</li> <li>● 法規制等による保護</li> </ul>
③浅海域生物（魚類・大型甲殻類・無脊椎動物・海藻類） ④スケトウダラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多利用型統合的海域管理計画に基づく持続的な漁業の推進</li> <li>● 既存のストレス源（混獲などの漁業の圧力、ごみ・油汚染などの人間活動からの圧力）の低減</li> </ul>
⑤海鳥（ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存のストレス源（混獲などの漁業の圧力、ごみ・油汚染や観光等の人間活動からの圧力）の低減</li> <li>● 適正利用の推進</li> <li>● 繁殖地の保全</li> <li>● 法規制等による保護</li> <li>● 普及啓発</li> <li>● 遺産サイトの拡大等</li> </ul>
⑥-1 海ワシ類（越冬オジロワシ・オオワシ） ⑥-2 海ワシ類（繁殖オジロワシ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存のストレス源（混獲などの漁業の圧力、ごみ・油汚染や観光等の人間活動からの圧力）の低減</li> <li>● 適正利用の推進</li> <li>● 繁殖地の保全</li> <li>● 法規制等による保護</li> <li>● 普及啓発（鉛弾の使用禁止の徹底）</li> <li>● 傷病個体の救護管理</li> <li>● 遺産サイトの拡大等</li> </ul>
⑦サケ類（サケ、カラフトマス、サクラマス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存のストレス源（漁獲圧力）の低減</li> <li>● 河川工作物の改良</li> <li>● 法規制等による保護</li> </ul>
⑧ヒグマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存のストレス源（観光客の接近、餌付け）の低減</li> <li>● 主要餌生物（サケ類、ハイマツやミズナラ堅果）の生息・生育環境の保全、改善</li> <li>● 市街地への侵入防止対策の充実、改善（問題個体としての捕獲回避）</li> </ul>

対象生物	気候変動に対する適応策
⑨-1 高山植生 ⑨-2 森林植生 ⑨-3 草原・海岸植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存のストレス源（観光客の踏圧、エゾシカの採食圧）の低減</li> <li>● 外来種の駆除/制御</li> <li>● 法規制等による保護、希少種の保全</li> <li>● 遺産サイトの拡大等</li> </ul>
⑩エゾシカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● — （現状としては個体数調整の対象）</li> </ul>
⑪オショロコマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存のストレス源（釣り）の低減</li> <li>● 河川工作物の改良</li> <li>● 外来種（ニジマス）の駆除/制御</li> <li>● 普及啓発（外来個体群の放流禁止の徹底）</li> </ul>